

企画担当

研究所業務の企画及び連絡調整、関係行政部局との連絡調整をおこなうとともに、市民の生活・健康・環境に関わるデータを収集・解析し、市民や行政に提供している。また、広報活動として、各種刊行物を発行し、図書室を市民にも公開している。

企画担当の主な業務は以下の通りである。

- 1) 試験検査、調査研究等の企画及び連絡調整に関すること
- 2) 情報の収集、解析及び提供に関すること
- 3) 研修及び指導の立案に関すること
- 4) 広報及び各種刊行物に関すること
- 5) 図書室の利用及び設備利用に関すること

1 調査研究の企画及び調整

調査研究は行政ニーズに対応した研究テーマを設定し、その成果が行政施策あるいは市民に反映されるものを特に選定した。具体的には、1)本市が持つ固有の事象に対する調査研究、2)他都市と比較して、本市にその事象が多いものの調査研究、3)受託事業から派生した調査・研究でその成果がその事業を補完するもの、あるいは今後行政施策に反映できるもの、4)国の研究機関、大学からの受託・共同研究を通じて、成果が行政施策や市民に還元できるものを研究課題として選定した。なお、選定にあたっては各担当から提出された研究概要調書をもとにヒアリングを実施するとともに、所長はじめ評価会議を設置して研究実施の適否を決定し、所要経費の予算配布をおこなった。

また、府立公衆衛生研究所及び府環境農林水産総合研究所との連携の一環としてそれぞれの強みを生かした共同研究事業を推進したほか、競争的資金獲得の拡大に向けて積極的に応募した。

2 試験検査の信頼性確保

食品検査の信頼性を確保するために、「大阪市立環境科学研究所食品衛生検査業務内部点検実施規程」及び「大阪市立環境科学研究所食品衛生検査業務内部点検実施マニュアル」にもとづき、“魚介類の残留農薬”と“魚介加工品中の亜硝酸根”について検査実施手順に関する点検を実施し、各々改善を講じるよう検査部門責任者へ要請した。外部精度

管理調査の実施計画を作成し、(財)食品薬品安全センター秦野研究所の実施する外部精度管理調査(理化学調査2回、微生物調査3回、計5回)に参加した。さらに、同研究所の遺伝子組換え食品の外部精度管理に参加した。

特定保健用食品については、「登録検査機関における許可試験の業務管理について」(食安新発第0227001号)による業務内部点検実施マニュアルにもとづき、関与成分あたり必ず1回以上は内部点検を実施することとしている。平成20年度は、許可試験の依頼総数62件のうち17件について試験手順に関する内部点検を実施し、“ゴマペプチド”については業務全体の管理に対する内部点検を実施した。また、検査実施過程への立会いによる内部点検を“サーデンペプチド”2件及び“キトサン”1件の許可試験について実施した。内部点検の結果、改善要請を2件、指導を1件及びコメントを1件、許可試験部門責任者に対して行なった。また、検査実施過程への立会いによる内部点検実施報告書を作成した。許可試験部門責任者と協議のうえ、外部精度管理試験としてFAPAS (Food Analysis Performance Assessment Scheme)プログラム「シリアル(水分・灰分・窒素・AOACによる総食物繊維)」に参加した。

環境分野については、環境省・環境測定分析統一精度管理調査の廃棄物(ばいじん)溶出液試料(重金属類)及び模擬水質試料(有機スズ化合物)に参加した。

3 情報の収集・解析・提供

(1) 図書室

衛生試験所時代から現在に至るまでの資料を収集・蓄積してきた。図書・雑誌類のほか、全国の行政機関・研究所・大学等で発行している調査・研究報告書、紀要等の学術資料を有し、広く一般市民に公開し閲覧に供している。

また、試験・検査、調査・研究に必要な生じた文献で、本所には所蔵していないものを迅速に入手するために、国立情報学研究所のNACSIS-ILL(図書館間相互貸借システム)に参加している。

一方、研究員の調査・研究における情報収集の高度化に対応するため、科学技術文献速報、環境公害編の二次資料や、また、JDream II やDIALOGの外部データベースの文献検索システムを導入することにより、最新の情報や遡及的情報の迅速な入手を可能にしている。ここに参考資料として、平成21年3月末の

所蔵の資料数は以下のとおりである。

雑誌:和雑誌 約1,260誌(継続中340誌)、洋雑誌 約450誌(継続中29誌)

図書:和書 約7,323冊、洋書 約1,959冊

(2) 研修、見学、講師派遣及び各種相談

各要請に応じて職員を対象とした研修の実施、大学等からの見学の受け入れを行った。また、大阪市の施設や各区等で開催される市民向け講習会等に積極的に講師を派遣した。

市民や関係職員からの環境問題や公衆衛生についての科学技術的な相談に対して随時対応した。

(3) 研究報告会等の開催

平成20年8月8日(金)に業務成果報告会を開催し、大阪市各部局から出席した参加者と意見交換を行なった(本市職員向け)。(演題:①国際都市大阪における感染症と環境科学研究所の取り組み、②食品への異物混入・事故品等における原因究明調査について、③大阪市における大気汚染問題の10年と今後の課題、④河川およびビル受水槽に関する緊急時対応の事例と課題、⑤ごみ処理行政と環境対策—清掃工場現場からの研究)

また、平成19年度の各担当重点研究(10テーマ)について平成20年8月21日(木)、22日(金)の両日に研究成果発表会を行った(所員向け)。

ドイツのフロイドリッヒシラー・イエナ大学へ平成18年10月から平成19年9月の1年間出張した食品保健担当仲谷正研究員が、帰国報告を平成20年10月31日(金)に行った。テーマは「麻痺性貝毒成分およびテロドトキシンの分析について」(所員向け)。

(4) 刊行物による情報提供

一年間の研究業績と事業活動を収録した「調査研究年報」、「事業年報」を発行し、中央官庁・国機関等(81ヶ所)、本市関係部局(179ヶ所)、地方衛生研究所・地方環境研究所等(107ヶ所)、大学等各種研究機関(77ヶ所)のほか、欧米諸国、中国、韓国等の研究機関(7ヶ所)、図書室等に配布した。

(5) 広報誌「健康・環境・サイエンス」の発行

研究所の業務を解りやすく理解していただくために、「健康・環境・サイエンス」を発行している。平成20年度は、97号～100号(平成20年6月、9月、12月、平成21年3月)を発行した(3,500部)。市民に読んでい

ただくため各区役所の情報コーナー等への配置をお願いしたほか、本市関係部局等、全国の研究所等、希望者等に送付した。

(第97号) 舞洲からメタンガス? / ごみの島からみどりの島へ / 栄養専門学校体験入学のお知らせ

(第98号) 食の安全と安心を支える食品のトレーサビリティ / 栄養専門学校の出前食育活動 / 一日体験講座のご案内

(第99号) 天然は安全? 《食品中の自然毒》 / 天然は安全? (1) 食べられるかどうかの素人判断は避けましょう / (2) 自然の食品には安全に食べるためのルールがあります / 海外留学報告 / 第10回くらしのサイエンス講演会のご案内 / 栄養専門学校学生募集のお知らせ

(第100号) 新型インフルエンザへの対策 / ノロウイルスによる胃腸炎に気をつけてください / 乳幼児は注意を!!RSウイルス感染症 / 研究所行事の報告

(6) 一日体験講座の開催

研究所の活動を紹介するとともに、市民が健康や環境について関心を深めるため、最新の話題をテーマに平成20年10月25日(土)に「一日体験講座」を開催した。Aコース「唾液で判る? あなたのストレス—唾液のデンプン消化力実験—」、Bコース「あなたのお家のホルムアルデヒド濃度を測ってみませんか」の2コースを開設し、所員による講義と実習を行った。各コース20名の定員を超える申し込みがあったが、当日の欠席もあり参加者は36名であった。



(7) 府市連携環境セミナーの開催

府市連携の一環として、平成20年度より府立環境農林水産総合研究所との共催で府市連携環境セミナー「大阪の空を考える」を平成20年12月4日(木)14時から16時15分まで、ドーンセンター5階特別会議室にて開催した。「東アジア規模の大気汚染広域移流の大阪府域への影響について」、「酷暑の街・大阪を

冷ますには・・・」、「スギ間伐材の有効活用による大気浄化技術のご紹介」の3題の講演が行なわれ、61名の参加があった。



(8) 第10回くらしのサイエンス講演会の開催

市民を対象に研究所が取り組んでいる課題あるいは「くらし」に関係のあるトピックスなどを話題提供している。昨年度の第9回から府立公衆衛生研究所と共催となった。第10回目となる今回は平成21年1月21日(水)14時から16時、大阪府病院年金会館にて実施した。「安心して食べるために-食品中の残留農薬を考える-」、「ごみから私たちの生活を見直してみませんか?」、「食中毒のお話-おなかをこわす菌-」の3題の講演が行なわれ、127名の参加があった。



(9) シティーホール展示会の開催

当研究所が果たしている役割を市民の方々に紹介するため、市役所1階正面玄関ホールにおいて、業務内容などをパネルの展示、映像による紹介(アスベスト分析の実際)、出版物により紹介する「パネル展」を平成20年8月1日(金)から8月29日(金)まで開催した。

「パネル展示の内容」

食中毒や感染症への迅速な対応、最先端の遺伝子解析による感染源の究明、食の安全を守る(中国産冷凍ギョウザ等の農薬検査)、特定保健食品の許可

試験実施、公園池でのアオコの発生と対策、外来種に追われるカンサイタンポポ、都市化とアブラゼミ・クマゼミ、ごみの島からみどりの島へ(舞洲緑道のエコロジー緑化)、ごみの調査分析、ごみ埋立地の調査管理、栄養専門学校を紹介、栄養専門学校での食育活動(出前講習、調理実習など)、市民向け企画の案内(一日体験講座・くらしのサイエンス講演会)、市内環境マップ(市民との協同による手作り環境マップ)



(10) 天王寺区民まつりへの参加

研究所の活動を地域市民の皆様幅広く理解していただく目的で、平成20年9月14日(日)に天王寺区五条公園にて開催された「天王寺区民まつり」に「身近な健康」をテーマに参加した。



(11) 天王寺区みんなの健康展への参加

研究所の活動及び最近の公衆衛生に関する話題を地域市民の皆様幅広く理解していただく目的で、

平成19年10月11日(土)に天王寺区民ホールにおいて開催された「天王寺区みんなの健康展」に参加し、ポスター展示やアンケートを行った。

(12) スミノエコロジー2008への参加

市民への広報活動の一環として、当研究所の業務紹介と環境問題への関心を喚起するため、住之江区役所が実施する環境イベントである「スミノエコロジー2008」(平成20年11月30日(日)、於:住之江区住吉公園)に参加し、パネルや手作りマップの展示による当研究所の業務紹介並びにプラスチックの分別実験や発泡スチロールのはんこ作りを行なった。



(13) 研究所ホームページ

平成21年3月16日に大阪市ホームページがリニューアルされた。これは従前の組織ごとの情報提供から利用者にとっての目的別の情報提供へと移行するものである。

リニューアル前の旧ホームページについて、平成20年度は更新回数33回、提供中の情報量はHTML

ファイルで、最終6,340ページであった。これらのうち、蔵書・所蔵雑誌目録情報は、5,721タイトル、蔵書・所蔵雑誌目録情報以外の提供中のHTMLページ数は619ページであった。年間アクセス件数について表2-1-1に示す。

リニューアル後のホームページについては、大阪市の担当が直接編集作業を行なうものであり、3月31日現在で研究所(附設栄養専門学校を含む)が提供しているページは109ページ(HTML)、データファイル(pdfなど)は55ファイルとなっており、3月16日から31日までの合計アクセス件数は約10,000件であった(カテゴリページ含む)。

表2-1-1 所ホームページへの平成20年度中のアクセス集計(旧ホームページ)

<http://www.city.osaka.jp/kenkoufukushi/iphes/>

カテゴリ	フォルダ名	アクセス件数
イベント案内	/iphes/event/	48,539
検査サービス	/service/	66,830
組織業務案内	/department/	115,419
施設利用案内	/institution/	85,046
研究成果集	/achievement/	113,229
広報誌	/information/	100,361
新着情報	/whatsnew/	20,533
入札契約	/keiyaku/	71,469
英文	/english/	2,089
iphesフォルダ	/iphes/	621,416
合計		

4 検査助手体制

研究所の検査業務を円滑に遂行するために、保健ブロック(8名)と環境ブロック(7名)に検査助手を配置して応援体制をとった。